

リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー

●リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(2019年度中間期)

(単位：百万円)

| 区分 | 連結 | 単体 |
|-------------------|---------|---------|
| ルック・スルー方式 | 98,207 | 98,203 |
| マンドート方式 | 8,348 | 8,347 |
| 蓋然性方式 (250%) | 979 | 979 |
| 蓋然性方式 (400%) | 1,288 | 1,288 |
| フォールバック方式 (1250%) | 365 | 365 |
| 合計 | 109,188 | 109,184 |

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。
 2. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。
 3. 蓋然性方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が250% (400%) を下回る蓋然性が高い場合は250% (400%) のリスク・ウェイトを適用する方式であります。
 4. フォールバック方式とは、上記以外の場合に1250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

(2018年度中間期)

(単位：百万円)

| 区分 | 連結 | 単体 |
|--------------|---------|---------|
| ルック・スルー方式 | 150,701 | 150,701 |
| 修正単純過半数方式 | 66,446 | 66,446 |
| マンドート方式 | 5,552 | 5,551 |
| 簡便方式 (400%) | - | - |
| 簡便方式 (1250%) | 2,243 | 2,243 |
| 合計 | 224,944 | 224,943 |

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。
 2. 修正単純過半数方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の総額の過半数を占める株式等エクスポージャーに対応するリスク・ウェイトを適用する方式であります。
 3. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。
 4. 簡便方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が400%を下回る蓋然性が高い場合は400%のリスク・ウェイトを適用し、それ以外の場合には1250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

金利リスク

●金利リスクに関する事項

IRRBB 1:金利リスク

(単位：百万円)

| 項番 | | 連結 ΔEVE | |
|----|-----------|----------------------|-----------|
| | | 2019年度中間期 | 2018年度中間期 |
| 1 | 上方パラレルシフト | 9,181 | |
| 2 | 下方パラレルシフト | 6,204 | |
| 3 | スティープ化 | 1,223 | |
| 4 | フラット化 | | |
| 5 | 短期金利上昇 | | |
| 6 | 短期金利低下 | | |
| 7 | 最大値 | 9,181 | |
| 8 | 自己資本の額 | 2019年度中間期 424,665 | |

(単位：百万円)

| 項番 | | 単体 ΔEVE | |
|----|-----------|----------------------|-----------|
| | | 2019年度中間期 | 2018年度中間期 |
| 1 | 上方パラレルシフト | 9,181 | |
| 2 | 下方パラレルシフト | 6,204 | |
| 3 | スティープ化 | 1,223 | |
| 4 | フラット化 | | |
| 5 | 短期金利上昇 | | |
| 6 | 短期金利低下 | | |
| 7 | 最大値 | 9,181 | |
| 8 | 自己資本の額 | 2019年度中間期 409,146 | |

●金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(2018年度中間期)

(単位：百万円)

| | |
|--|--------|
| VaR | 22,495 |
| アウトライヤー基準に基づく標準的金利ショックによって計算される経済的価値の増減額 | 26,143 |
| アウトライヤー比率 | 6.8% |

- (注) 1. 連結貸借対照表における総資産の大部分を銀行が占めることから銀行単体にて計測しております。
 2. VaR算定手法は、信頼係数：99%、保有期間：6か月、シミュレーション法：ヒストリカル・シミュレーション法であります。
 3. 標準的金利ショックは、円貨、外貨ともに99パーセンタイル値と1パーセンタイル値であります。